

● 谷津田の環境変化とウグイス、キジ、オオヨシキリなど

この谷津田で観察会を実施するため、初めて下見に来たのは2005年10月27日でした。あれから20年、観察会のたびに斜面林や湿地が変化してきました。水田は消滅しつつあり、ヨシやガマなどの草原を経て低木林へと遷移が進行しています。ここは、数十年にわたる植生変化と鳥相との関係を知る上で絶好のフィールドなのです。どんな鳥が、どんな環境に適応しているかを観察してみましょう。



参考：1988年鎌ヶ谷市の谷津田



2009年5月の岡発戸



2025年5月の岡発戸



静かに鳥の声を聞く Bird-listening

<Bird-listening>

まず、30秒間、目を閉じていただきます。

どんな鳥の音が聞こえますか？

参加者の回答はこうでした。

「ウグイス、キジ、コジュケイはほぼ全員で確認。遠くからオオヨシキリ、ホオジロのさえずりが聞こえました」

「キビタキやメジロ、コゲラの声をキャッチできました」

ヒトは視覚的動物と言われています。目で鳥を追う Bird-watching を優先しがちです。しかし、鳥たちの多くは、鳴き声によるヴォーカルコミュニケーションを交わしています。野鳥観察では、鳥たちと静に向き合う Bird-listening も重要です。

<鳥たちの生息環境>

“ホーホケキョ”というウグイスのさえずりがにぎやかです。しかし、姿を見た人はいません。ウグイスは、見通しの悪い藪などで暮らしているため、色彩は地味。代わりに声による情報交換が発達しました。



ウグイス



オオヨシキリ



キジの母衣打ち

2025-2-2-1

戻る https://sizenkansatu.org/marugoto2025_2_rp.html

水田耕作が放棄され、草地にノイバラやヤマグワ、マルバヤナギなどの低木の混じる藪(ブッシュ)が湿地を覆うようになり、ウグイスにとって好適な環境が広がっています。

一方、東大の秩父演習林では、急増したシカの食害によりササなどの藪が減少。藪を好むウグイスやコルリなどが消滅したことが報道されました（2025年5月22日 朝日新聞夕刊）。

オオヨシキリやホオジロが多いのは、彼らの好む草原や低木が増えてきたこと、キジやコジュケイは、畑や草地、ゴルフ場、竹林などの分布と関係しています。

ちなみに、キジ(雄)は、見通しのよい畑などで、“ケンケン”と鳴きながら翼を激しく羽ばたかせ、縄張りを主張します。母衣(ほろ)打ちといえます。ウグイスとは対照的に派手な色彩を誇示します。

<観察を記録に残す>

自然観察では、同じフィールドで長年にわたり観察記録を積み重ねることが重要です。目の前の自然を観察しつつ、過去と比較し、時間の流れの中で自然を理解する上で欠かせません。

岡発戸（我孫子市）で観察した野鳥（2006-2025）		唐沢孝一							
		2006	2009	2012	2015	2019	2024	2025	
1	ウグイス	○	○	○	○	○	○	●	7
2	キジ	○	○	○	○	○	○	●	7
3	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	●	7
4	オオヨシキリ	○	○	○		○	○	●	6
5	ホオジロ	○	○	○		○	○	●	6
6	シジュウカラ	○			○		○	●	4
7	ツバメ	○	○		○			●	4
8	ハシボソガラス			○		○	○	●	4
9	ムクドリ	○	○			○		●	4
10	コゲラ	○	○					●	3
11	スズメ	○	○					●	3
12	ハシブトガラス	○					○	●	3
13	アオサギ		○					●	2
14	コジュケイ	○						●	2
15	ヤマガラ	○						●	2
16	カルガモ							●	1
17	カワセミ							●	1
18	キビタキ							●	1
19	ノスリ(?)							●	1
20	ヒクイナ							●	1
21	メジロ							●	1
22	キジバト							○	1
23	セグロセキレイ	○	○	○	○				4
24	モズ	○	○	○	○		○		4
25	オオタカ	○	○	○					3
26	カワラヒフ	○	○				○		3
27	ハクセキレイ	○	○		○				3
28	カケス	○			○				2
29	コサギ	○		○					2
30	ダイサギ	○	○						2
31	ツツドリ			○	○				2
32	アマサギ	○							1
33	エナガ				○				1
34	カッコウ	○							1
35	ゴイサギ			○					1
36	サシバ						○		1
37	チュウサギ	○							1
38	ホトギス		○						1

注1) 観察会や下見時に観察したメモです。(正確なセンサスではありません)。

注2) 4月～9月の記録です。(秋～冬の記録はありません)。

注3) ●→観察会(2025年6月1日)で観察した鳥類

岡発戸の鳥類について、これまでの下見や観察会の際に見聞きした鳥種をリストアップしてみました。表は、過去の記録に今回の観察会で記録した19種を追加したものです。過去の記録と対比することにより、谷津田で生息する鳥類についてさまざまな情報が読み取れます。

- 谷津田での優占種はウグイス、キジ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、ホオジロなど。
- 2025年、ヒクイナ、キビタキを新しく記録した。
- 時々猛禽類が出現する。オオタカ(2006、2009、2012)、サシバ(2024)、ノスリ(2025)など。
- 藪を好むガビチョウ(中国からの帰化鳥)が、千葉県内で分布を拡大しています。岡発戸に、いつ進出してくるかが要注意。

(唐沢孝一)